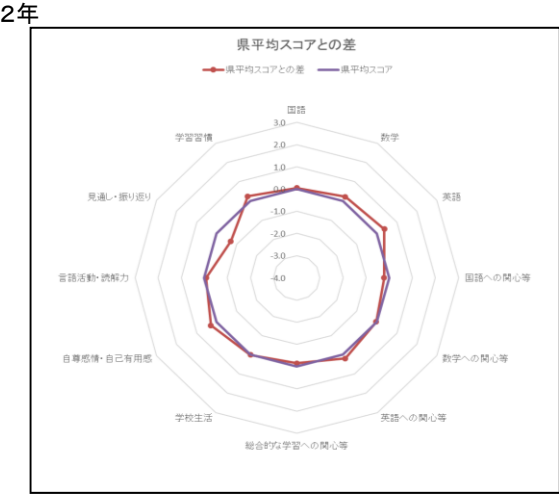
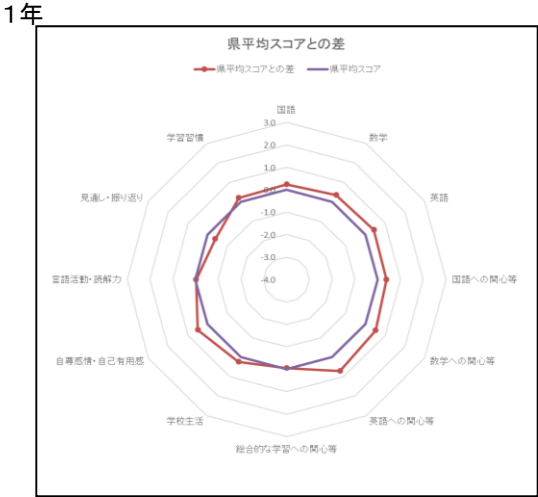


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立第一中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○ほぼすべての問いで、県の正答率を上回っている。特に要旨をとらえる力がついており、読みとったことを自分の言葉でまとめる学習を増やした成果だと思われる。 ●文章の表現や展開について、自分の考えを持ち、的確に書く力が弱い。	・文学作品などの読みとりのスキルを示したり、読みとったことを根拠を示して説明したりする学習を充実させる。 ・図書館を活用し、自分の考えを表現するのに有益な情報を取捨選択して使える力がつく学習を工夫する。
	数学	○ほぼすべての問いで、県の正答率を上回っている。無回答率も低く、あきらめずに回答していることが分かる。 ●資料の活用についての問題の正答率が低い。 ●「数学の授業で学習したことを普段の生活のなかで活用できないか考える」の肯定的回答の割合が、他の質問に比べて低い。	・資料の整理の単元で、小学校で学習したことを復習し、関連づけながら丁寧に指導する。 ・授業において、身の回りにある課題を活用しながら、学習内容が普段の生活に関わっていることを伝える。
	英語	○対話文の要点を読み取る力が高い。 ●正しい英語で答える力が弱い。 ●リスニングで選択肢を聞き取って答える力が不足している。	・リスニングの力を高めるため、授業での教師・生徒の英語使用量を増やす。 ・授業の始まりに帯活動として、自分の考えや意見、気持ちを相手に伝える活動を取り入れていく。 ・英語への関心が高いので、英語で自己表現する活動を増やす。
2年	国語	○全体的には県の正答率を上回っている。項目ごとに見ても県の正答率と同様の傾向がみられる。 ○記述問題でも、自分の考えを記述する問いには県平均の正答率を上回る結果であった。 ●文量のある資料の読み取り、抽象的な考えを問う問題では正答率が低くなる。	・文量の多い情報を読み取り、的確に処理する力がつく学習を工夫する。 ・読解を深めたり、表現を工夫できるようにするためにも、資料を使って学習を進める工夫をしていきたい。 ・漢字の練習は継続し、底上げを図っていく。
	数学	○全体としては、県を上回る正答率であった。特に県で弱いとされる関数については県22%、本校31.2%と、正答率は県を大きく上回った。 ●図形、資料の活用の問題がやや弱い。また、グラフから説明する問題の無解答が多い。	・図形については、2年での学習により、平面図形の理解度は高まっていると思われる。空間図形については、復習の必要がある。 ・資料の活用は、3年の標本調査の単元で再確認する。 ・グラフから読み取ること、事象を説明することは必要な学力なので、重点的に取り組む。
	英語	○ほぼすべての問いで、県の正答率より上回っている。 ○長文の要点を読み取る問題は正答率が高い。 ●英文文の問題では、正答率が低く、無回答率が高い。 ●選択式の問題形式に比べ、記述式の問題形式が苦手である。	・授業の始まりに帯活動として、自分の考えや意見、気持ちを相手に伝える活動を取り入れていく。 ・話したことや聞いたことを書く活動につなげ、表現力の定着を図るよう指導方法を工夫していく。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	72	57	70
	松江市	69	52	64
	島根県	68	49	62

受検者数
1年生 285 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていると思う」と回答している割合が高く、目標をもって授業に取り組むことができている。 ●「授業では、最後に学習したことをふり返る活動をよく行っていると思う」と回答している割合が低い。	・「めあて」「振り返り」の提示は徹底されているが、内容が不十分だったり、浅いねらいになりがちであったりする。生徒自身が意欲をもって学習したいと思うような「めあて」を提示し、何を学んだのかまとめることができる「振り返り」をするなど、「めあて」「振り返り」の連動を図っていく。
	家庭学習に関わる事項	○「家で、学校の宿題をしている」と回答している割合が高い。 ●「家で、学校の授業の予習をしている」と回答している割合が低く、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答も県に比べてやや低い。	・自主学習ノートを毎日提出することを継続し、習慣づけていく。 ・家庭学習の内容や方法について、学年部と教科で連携しながら、具体例を示すなどして宿題以外の計画的な学習の実践を図っていく。
2年	授業改善に関わる事項	○授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されており、目標をもって授業に取り組むことができている。 ○授業では発表する機会があり、話し合い活動も活発に行われていると感じる生徒の割合が多い。 ●「授業では、最後に学習したことをふり返る活動をよく行っていると思う」と回答している割合が低い。	・「めあて」「振り返り」の提示は徹底されているが、内容が不十分だったり、浅いねらいになりがちであったりする。生徒自身が意欲をもって学習したいと思うような「めあて」を提示し、何を学んだのかまとめることができる「振り返り」をするなど、「めあて」「振り返り」の連動を図っていく。
	家庭学習に関わる事項	○家で学校の宿題をしていると答えた割合は高い。 ●平日の家庭学習時間が1時間以上と答える生徒の割合が6割弱である。	・自主学習ノートを毎日提出させているが、それ以上の学習をしない傾向がある。自主的に取り組めるように、学習計画を立てるなど、学年部、教科担当で連携を取っていく。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

